

科目名	解剖生理学					開講 キャンパス	神 埼	
担当者	能 見 光 雄							
開講年次	1	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必 修	
授業の概要 及びねらい	解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、管理栄養士等の健康科学教育にとともに重要な科目である。本講義は、両者を融合的にまとめて解説し、解剖と生理を別々の学問として理解しては不可能なつながり、つまり各臓器で、ある機能のためにどうしてその形をとるのか、またその形のためにどのような機能があるのかを理解してもらう。							
授 業 の 到 達 目 標	①知識・理解 1) 解剖学や生理学で普通に使われる漢字が読める。 2) 解剖学や生理学で普通に使われる語句を説明できる。 3) 人体の各臓器が体のどこにあるか説明できる。 4) 人体の各臓器がどんな形をしているか述べる事が出来る。 5) 人体の各臓器の大きさについて述べる事が出来る。 6) 人体の各臓器の位置関係を説明できる。 ②思考・判断 1) 人体の各臓器の構造と機能の関係について結びつけて考える事が出来る。 2) 人体の各臓器間の機能の連携を述べる事が出来る。 ③感心・意欲 1) 生体の生理現象							
学習方法	板書を丸写しするのではなく、この授業ではどこが大事であるかを自分で考えながらノートをとる。別の日にノートを見て、授業でどんな話があったか思い出せるようにする。逆に思い出せるようなノートをとる。							
テキスト及 び参考書等	テキスト：「イラスト 解剖生理学」 青峰正裕 他 著 東京教学社 参考書：「人体の構造と機能① 解剖生理学」 坂井建雄 岡田隆夫 著 医学書院							
評価基準・方法	到 達 目 標							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%			
定期試験	◎	○	○		70			
小テスト等								
宿題・授業外レポート								
授業態度			◎		10			
受講者の発表								
授業への参加度			◎		20			
その他								
合 計						100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)								
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)								
第 1 週	オリエンテーション と 1章 人体の構造と機能							
第 2 週	2章 体液と血液							
第 3 週	2章 体液と血液							
第 4 週	3章 骨格							
第 5 週	4章 筋肉							
第 6 週	5章 神経							
第 7 週	6章 循環器							
第 8 週	7章 呼吸器							
第 9 週	8章 泌尿器							
第 10 週	9章 消化器							
第 11 週	10章 内分泌							
第 12 週	11章 生殖							
第 13 週	12章 皮膚と感覚							
第 14 週	13章 生体防御と免疫							
第 15 週	14章 エネルギー代謝と体温調節							
第 16 週	試験							
備 考	授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示 前の日が無理なら、授業当日少しでも早く席について、今日習う箇所、習った箇所を読んでおく。							